

平成25年度 国立江田島青少年交流の家教育事業

教員免許状更新講習「授業づくりに活かせる体験活動」 ～海が学校! 海が先生!～ 実施報告書

【趣 旨】 小学校教員等が体験活動の意義について理解するとともに、「海」を中心とした基本的な体験活動指導技術を実習を通して身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家

【期 日】 平成25年12月24日(火)～12月26日(木) 2泊3日

【会 場】 国立江田島青少年交流の家

【対 象】 平成26年3月31日及び平成27年3月31日が最初の修了確認期限の方で以下に該当する方。

小学校・特別支援学校(小学部)に教員として勤務している者

小学校・特別支援学校(小学部)教員として任命・雇用される見込みのある者

(非常勤リストに登録していること・採用内定がされていること等)

小学校・特別支援学校(小学部)教員勤務経験者

<本講習の受講対象者の生年月日>

・昭和33年4月2日～昭和34年4月1日 ・昭和34年4月2日～昭和35年4月1日

・昭和43年4月2日～昭和44年4月1日 ・昭和44年4月2日～昭和45年4月1日

・昭和53年4月2日～昭和54年4月1日 ・昭和54年4月2日～昭和55年4月1日

その他の校種の方(養護教諭・栄養教諭は除く)も、本講習に興味がある場合は受講できる。

【参加者数】 11人

【企画・運営のポイント】

(1) 教員の体験を豊かにする

教員自らが自然体験活動等を行うことにより、体験活動の意義や教育的効果を体感できるようにする。そのために、江田島の「海」を活用した「海辺の生き物観察と指導法」や「カッター研修」を行ったり、「野外炊事」を行ったりする。

(2) 「体験と知識を結びつけるプログラム」で研修効果を高める

研修プログラムを実習と講義を組み合わせたものにし、体験と知識を結びつけることで理解を深め、学校現場で活用できる力を身に付けられるようにする。「海辺の生き物観察と指導法」では、江田島の「海」に生息する生き物たちに直接接触したり、荒代海岸に行き採集したりして指導法について学んだ後、講義を受け理解を深める。

(3) 宿泊研修で受講者(教員)間のネットワークを築く

受講者(教員)が児童・生徒の宿泊研修と同じように寝食を共にし、学び合い・語り合うことで、教員間のネットワークを築くことができるようにする。最初のレクリエーションの実習でアイスブレイクを体験することで緊張を解き、その後の活動や交流を活発に行えるようにする。

【活動の実際】

(1) 内容 「教科指導、生徒指導その他の教育の充実に関する事項」(選択18時間分)

- ① [講義] 教育の課題に関する理解 (1.5h) 広島大学大学院教育学研究科准教授 曾余田 浩史
(内容) 教育の現状と今日的な課題に関する講義
- ② [講義] 体験活動に関する理解 (2.0h) 広島大学大学院教育学研究科教授 林 孝
(内容) 体験活動の意義や学習指導要領における「体験活動」の位置づけに関する講義
- ③ [実習・講義] 体験活動に関する技能の習得
 - ア [実習・講義] カッター研修 (2.0h) 国立江田島青少年交流の家企画指導専門職 倉本 倫典
(内容) カッター研修の教育的効果に関する実習・講義
 - イ [実習] 野外炊事 (2.0h) 国立江田島青少年交流の家企画指導専門職 倉本 倫典
(内容) 宿泊活動でよく行われる「野外炊事」の基礎的な技術を習得する実習
(なたの使い方・かまどづくり・ご飯の炊き方・安全指導・後片付け等)
 - ウ [実習・講義] 海辺の生き物観察と指導法①～③ (7.0h) 大柿自然環境体験学習交流館館長 西原 直久
(内容) 海辺の生き物の観察及び採集を行い、実物体験の意味と指導法を理解する実習・講義
 - エ [実習] レクリエーションの意義と指導方法(2.0h) 国立江田島青少年交流の家企画指導専門職 錦織 修一
(内容) 子ども同士の関係を円滑にするためのレクリエーションの意義と指導法を学ぶ。
- ④ 履修認定試験 (1.5h)

(2) 日程

【第1日目】 12月24日(火)

12:00	12:30	13:00	15:00	15:20	17:50	18:30	20:30	
	受付	開講式・ガイダンス	実習 レクリエーションの意義と指導方法(2.0h)	休憩	実習・講義 海辺の生き物観察と指導法①(2.5h)	休憩	夕食(情報交換会)	入浴

【第2日目】 12月25日(水)

7:00	8:30	9:30	12:30	13:30	15:30	16:30	19:30
実習・講義 海辺の生き物観察と指導法②(1.5h)	朝食 休憩	実習・講義 海辺の生き物観察と指導法③(3.0h)	昼食 休憩	実習・講義 カッター研修(2.0h)	休憩	実習 野外炊事(3.0h) *食事・休憩(1.0h)を含む	入浴

【第3日目】 12月26日(木)

7:20	8:40	10:40	11:00	12:30	13:30	15:00	15:30
朝食	講義 体験活動に関する理解(2.0h)	休憩	講義 教育の課題に関する理解(1.5h)	昼食 休憩	履修認定試験(1.5h)	閉講式	解散



レクリエーション実習



海辺の生き物観察



カッター研修

【成果】

- (1) 「海辺の生き物観察と指導法」では、実際に海岸まで行き生き物を採集したり、採集したカニや貝などを教材として、受講者が直接触れながらその生態や特徴を観察して分類したりする活動を通して、知識と体験を結びつけながら指導法について学ぶことができた。受講者からは、「自らが体験を通して学ぶことができ、有意義な時間となった。」などの感想があった。
- (2) 「海辺の生き物観察と指導法」をはじめとして、講義と実習を組み合わせたことにより、体験と知識を結びつけることで理解を深め、実践に活用できる力を身に付けることができた。レクリエーションの意義と指導方法では、参加者が子どもの立場になった子ども同士の関係を円滑にするためのレクリエーションを体験しながら学び、受講者からは、「学校現場で使えるものがたくさんありよかった。」という感想が出された。また、最終日に「体験活動に関する理解」や「教育の課題に関する理解」などの講義を受けることで、1日目2日目の実習について理論に基づいて整理したり学んだりすることができ、効果的な体験活動について理解を深めることができた。
- (3) 地域・校種等の違う者同士が3日間共に過ごし、交流を深め情報交換をすることができた。「みなさんと和気あいあいと和やかに過ごせました。」との感想があった。

【今後の課題】

- 海辺の生き物観察は、直接海岸に出向き体験することが効果的なので、冬のこの時期は、干潮時に潮位があまり下がらなかつたり干潮の時間が早朝となつたりするが、日程を調整しできるだけ実際に海岸に行つて観察できるようにする。